令和５年度
大野市文化財保存活用地域計画推進協議会
会　議　録

日　時　　令和５年６月２８日（水）１０：００～１２：０５
場　所　　結とぴあ　２０１・２０２号室

大野市教育委員会事務局　生涯学習・文化財保護課

出席者　　○委員１４名　委員（団体）７名、県職委員１名、市職委員６名
　　欠席者なし
　　○教育委員会　教育長
　　○事務局５名　課長佐々木、課長補佐宮山、指導学芸員田中、主任学芸員酒井、学芸員不二山

１　教育理念唱和

２　委嘱状交付

委員退任による新任委員の委嘱

３　教育長あいさつ

前回の会議で申し上げた、私の地元、小山地区の阿難祖領家と阿難祖地頭方で祀った、牛頭天王をお祀りする社の祭礼が７月にある。奇数年の今年は、阿難祖領家のお世話の番で、自分も地区の総務部長として関わっている。

小さな頃は、何も気にせず、祠の前で野球をしたり遊んだりした。父母が退いてからは、自分たちが、今後どのように地域の伝統行事を受け継いでいこうかと考えるようになった。

さて、３年がかりで作成した文化財保存活用地域計画は、文化財を次の世代にしっかりと引き継いでいくためのものである。本日は、各方面で文化財に関わる皆様に忌憚のないご意見をいただきたい。

４　会長あいさつ

来年春の北陸新幹線敦賀駅までの開通に向け、文化財の観光活用にかかる市町の予算や施策が数多く出ている。これがきっかけとなって、今後も、文化財に係る施策の充実が図られることを願っている。そのような中で、私たちの仕事は、地域の中で文化財の保存と活用を推進することである。本日は、皆様の活発なご意見をお願いする。

５　議　事

（１）　令和４年度　措置（事業）の進捗について　資料 No.1　資料 No.2

（２）　令和５年度　措置（事業）の推進について　資料 No.1　資料 No.2

○資料Ｎｏ．１について事務局説明

＜質疑＞

委　　員：事業番号３１番のＶＲ動画を体験できるコーナーの開設場所はどこか。

市職委員：開設場所は未定。天空の城が出現する、秋から冬にかけて動画を撮影し、その後、開設する予定。

委　　員：事業番号９番の民具カードの配布や事業番号２１番の小中学校のふるさとの魅力発信ＣＭなど、知っていたらもっと見ていただろうなと感じた。良い取り組みなので、発信の仕方を、若い視点で、ネットを通じた方法で考えていくと良い。ＶＲにしても、撮影の仕方を工夫してほしい。

委　　員：文化財を活用し、交流人口を増やしたいという思いがあると思う。民俗資料館に記載があるように、イトヨの里や他の博物館の入館者数はどうか。また、事業番号３１番は、「稼ぐ力の向上に寄与している」とするより、具体的な数字を挙げるとわかりやすい。

事務局　：歴史博物館は、令和３年度入館者数は２，８８０人、令和４年度は３，０２２人で、１４２人増加している。また、今年度は、昨年度より４８人減って、約８％減となっている。民俗資料館は、今年度は５月末で昨年度より１４７人増えて、３４％増となっている。イトヨの里の入館者数は、令和３年度は６，１３２人、令和４年度は６，４９０人で約３６０人増えて、約６％増加した。リニューアルオープンした３月は、前年度３月の３倍になった。今年度は５月末で昨年度より４６人減って、約４％減となっている。

市職委員：事業番号３１番について、人数や売上額などは把握していないが、越前おおのブランドを使ったイベントや取組みについては、１４事業者に対して補助し、稼ぐ力の向上を支援することができた。令和５年度以降もさらに伸ばしていきたい。

教育長　：貴重なご意見に感謝する。事務局から具体的な数字をお答えしたが、博物館の入館者数などの推移が、お渡しする資料を見てわかるよう、見える化すると良いとのご指摘でもある。ＰＲについても、機会をとらえた様々な方法があり、人を引き寄せるものになるよう工夫したい。

委　　員：先日の津田寛治のトークショーで、最後に観客が、大野に初めて来て、

ギャラリーに展示してあった絵画を買えたことが素晴らしいことだと発言していた。津田氏も、所有して楽しむことも大切だと言っている。小コレクター運動が根付いた大野では､多くの絵画を持っている人がいる。人に譲ってもいいよというものがあれば売買できることも、大野の特色となったらいいと思う。

市職委員　：大野市内には、多くの絵画があるということを実感している。これからも、市民所有の絵画展を続けていくことと、おさんぽアートなどとも協力しながら、小コレクター運動を守り続けていきたい。

事務局　：文化財についても、絵画についても大野市内に貴重なものが存在する。当課においても、今秋、文化財の一般公開を目指しているが、文化財、絵画ともに、良いものを公開できるよう、市民の皆様にも協力をいただきたい。

○資料Ｎｏ．２について事務局説明

＜質疑＞

委　　員：中部縦貫自動車道の道路工事で出た石を活用した、ＨＯＲＯＳＳＡについて、１０年程度の石のストックがあると聞いているが、その後はどうするのか。また、星空保護区認定を後押しするために、地球科学研究会が月１回、市役所駐車場での観望会を開催している。観望会は夜８時開始であるが、駐車場の街灯は９時にならないと消えない。以前からの要望であるが、月１回の観望会の日について、８時消灯に協力をお願いしたい。

事務局　：現在、ＨＯＲＯＳＳＡでは、岩石を３種類に分けて設置している。岩石の移動がしやすいよう設計されているため、岩石の種類を減らしたり、今後供給される岩石を加えたりするなどの運用で、発掘体験を継続的に行っていきたい。

市職委員：観望会の消灯については、関係課とも協議をしたが、防犯上、９時までは街灯を付けておくこととさせていただきたい。

会　　長：この計画は、大変多くの事業があり、いろいろな課が横断的に関わっている。文化財の活用について広報する場合、文化財保存活用地域計画の掲載事業であるという、マークなどを決めて広報すれば、それは、おの

ずと地域計画にかかる事業という塊となり、また、そのように広報することで、市民の方にも理解されやすい。また、数字の見える化であるが、遠足は市内からか市外からか、また、小学校などの学外活動に位置づけがされているかなど、数字を合わせていくことで、関連文化財群の措置の中で、子どもたちに必要なことを明らかにできるのではないかと考える。また、この表を作成する場合、後から作成すると大変であるのでフォーマットを決め、事業を実施した際に入力できるようにすると良い。

事務局　：数字の見える化ということで、資料を改善していきたい。広報の際、ＳＤＧｓなどロゴマークを使用しているが、そのようなことができないか検討したい。また、資料作成の取りまとめについては、多くの事業を行っているため、全部を示すと膨大な内容となるので、会議に際しては、ある程度取りまとめて報告させていただいた方がわかりやすいと考えている。学校については、入館者数は、市外の遠足の子どもたちが大きく関わっている。市内の学校については、例年、郷土の学習で博物館を利用していただいているが、市外の学校はまちなか遠足という環境・水循環課が行う事業とも連携して関わっていきたい。

会　　長：様々な事業について、タイムスケジュールを見える化すると、事業の開催時期が集まっているところなどがわかり、大野市全体を俯瞰した、市民の方にとって参加しやすいタイムスケジュールに改善できるのではないかと思う。

事務局　：主要事業の年間計画などを活用できないか検討し、次回までに改善する。

（３）　団体等の活動紹介　資料Ｎｏ．３

大野市文化財保護審議会

大野市文化財保護審議会は、文化財保護法及び大野市文化財保護条例に基づき設置。６人の委員が委嘱されている。任務は、大野市教育委員会の諮問に応じて、文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議し、並びにこれらの事項に関して大野市教育委員会に建議する。令和３年度から４年度にかけて、「伝大野城式台前門（喜多山家長屋門）」の調査及び審議を行い、教育委員会に建議し、市の文化財に指定されている。委員が調査研究成果を３～４年ごとに、「奥越史料」で発表しており、今年度末に発行を予定している。文化財

保存活用地域計画（以下、地域計画）の作成にあたっては、文化財の保存・活用の推進体制として保護審議会の現状の記載が必須となっている。また、同条第３項では、地域計画の作成にあたっては、あらかじめ保護審議会の意見を聴かなければならないとしている。

神子踊り保存会

上打波は、夏の間はそれぞれの山で出づくり生活をしており、苦しい生活の中で、お盆の時だけ顔を合わせた。神子踊はその大事なイベントであり、上打波の住民にしか理解できない心を大切にして、継承していきたいと考えている。数年ほど前から上打波出身者だけでは継承できなくなり、上打波以外の方の参加も受け入れている。きっかけとして、以前、六本木ヒルズでの発表会に招待されたが、当時、高齢者ばかりで参加できなかったことがある。それ以降、上打波以外の方にも参加していただき、その方たちは今でも続けてくれている。

郷土芸能は、人とともに活動がよどんでしまうと、会が、干上がったり濁ったりしてしまう。静かに、そして、やさしい気持ちでいてくださると、続いていくのではないかと思う。

踊り結びでのＹｏｕＴｕｂｅ配信などの機会もいただいたが、保存会は、（継承していくうえで）今が一番大切な時期と考えている。

善導寺

地域に息づく多様な信仰形態という点で、胸を張って紹介できる事例であると思っている。「親子の寺子屋」は、檀家ではない方々へ門戸を広げている活動である。「書初めワークショップ」は、書道という文化を通して仏教に親しんでいただき、「謎解き寺からの挑戦状」は、節分という文化も含めてお伝えした。「キッズお点前体験」は、茶道を通して日本文化を体験していただいた。「百万遍数珠繰念仏会」、「御忌会」、「涅槃会」、「春季彼岸会」は、従来からある法要であるが、縦横３メートル位の掛け軸で、絵解きもできる涅槃図や大麻曼荼羅図などの、指定はされていないが、文化財を使っている。

今後は、大野藩主土井家の墓地や位牌がある菩提寺であることも生かしながら、時代を生きる心を育てるような活動をしていきたい。

大野地球科学研究会

天文、地質、気象、生物の４つの分野で活動している。力を入れている天文と地質について紹介する。

まず、天文分野では、「星空保護区認定」を後押しするため、月一回の市役所駐車場での観望会を、先日２３日にも行った。１０月には、「星空の街・あおぞらの街」全国大会が開催予定であるが、会からも全面的に協力をする。市内観光業者との連携で、昨年８～９回行った「星空観望ツアー」へ協力をしたが、今年度も継続したいと考えている。市内小学校からの依頼で、「大野の星空の魅力紹介授業」を行っている。先日は、有終西小学校で出前授業を行った。大野市と自然保護センター、星空関係者との橋渡し役については、これからも継続する。昨年度から「星のソムリエ」を育て、次世代に天文保護活動を繋ぐ取組みを行っており、現在、ソムリエは１５名、準ソムリエが１５名、合計３０名となった。自然保護センターが主催で、市内小学生を対象に「大野 Jr 天文リーダーアカデミー」を開設するが、こちらにも協力する。

地質・化石分野では、今年、研究会発足５０周年となることを記念して、これまで本会が採集した分類済みの化石標本について、画像の一般公開を予定。４月～１１月にかけて、月平均２回程度、和泉地区や中島方面の古生代・中生代の地層踏査を行っている。クマがいるため、最低３名以上で、けもの道を踏査している。市天然記念物「ナポレオン石」の産出地である若生子の中足谷踏査を予定。場所は、４５度くらいの斜面（崖）であるため、一般の方はいけない場所であるが、何とか今年行ってみたいと考えている。化石発掘体験施設「ホロッサ」への講師派遣を継続予定。市の自然活動団体主催の「九頭竜ジオ・カヤックツアー」に講師を派遣し、九頭竜湖対岸での化石発掘体験補助を予定。

大野商工会議所

ＩＮＰＩＴ（工業所有権情報・研修館）が全国の地域団体商標を対象にカードを作成しており、地域団体商標を取った「でっち羊かん」がカードになった。全国のコレクターから、問い合わせがあったり、カードを取りに来ていただいたりして、すごくＰＲになっている。毎年２月に行うでっち羊かん祭りは、今年は１万６千人に来ていただき、会場だけで７００万円以上の売り上げがあった。それに伴う飲食店等への集客効果もある。半夏生さばについては、青年部

がコロナ禍の前までは、さばウオークやギネスに挑戦などでＰＲをしていた。

今年、城まつりは５６回目、花火は２６回目を迎える。昨年は、コロナ禍の中でも、踊りを復活させることができた。今年は、コロナに対する感染症対策が５類になり、通常通りの踊りを開催する。先日、商工会議所にインターンシップで来た高校生２名に、城まつりに来たことがあるか尋ねたところ、１回も来たことがないということであった。その親御さんも来たことがないと推測ができ、これは何とかしないといけないということで、城まつりのチラシを、幼稚園、小学校、中学校の約３千人に配布することとなった。また、踊りの保存会の方や演奏者の方にも協力いただきながら、踊りを普及している。有終西小学校や下庄小学校では城まつりの授業があり、踊りの練習に行かせていただいている。

一般社団法人　大野市観光協会

６月から大野城の御城印帳の販売を開始した。昨年度は、金森長近バージョンと土井利忠バージョンのみであったが、今年度は、からふるウサギ版が加わった。大野城の階段のリニューアル装飾に合わせた絵柄である。ポケットタイプの御城印で、御城印を入れて保存もできるし、ポケットの裏は、スタンプを押したり、メモしたりできる。４０頁で表紙も台紙も和紙を使用している。数量限定販売で、価格は、ノーマルバージョンが２千５百円で、カラフルバージョンは２千６百円で販売している。販売場所は、大野市観光協会と、越前大野城の発券窓口で販売している。

大野市文化協会

文化協会は、６０団体、約５００名の会員がいる。文化財保護に関して、これまで長きにわたりはぐくまれてきた、各地の伝統文化や芸術を後世に伝え、守っていくことが使命と理解し、活動を続けている。

今回で４５回を迎える「民謡の祭典」を主催し、また、大野市美術展、文化祭も市と共催している。７月２３日に開催される「民謡の祭典」では、「ふるさと下庄おどり会」、「西谷もじり保存会」、「穴馬民踊保存会」が郷土芸能を披露する。ほかにも、歌や演奏、踊りを発表する場となっている。１１月３日の文化祭「錦秋のしらべ」でも、毎年、神子踊保存会をはじめ、４～５つの保存会

が出演している。

各祭典に出演することで、モチベーションを上げて、頑張ろうという気持ちを持ち続けていただくことを願っている。それが、文化財保存に関する文化協会の活動だと思っている。

＜総括＞

福井県教育庁　生涯学習・文化財課　委員

大野市文化財保存活用地域計画の作成に、1年間ではあるが、関ってきた。

多くの措置がある中で、進捗状況を見ると、令和4年度はおおむね順調であると確認でき、安心している。

措置（事業）の進捗の中で、1つだけあった「保留・中止」は、コロナ禍の影響ということであったが、今年の5月にようやく行動制限が解除され、人の動きも出てくる。計画の期間は長く、長い目で見ていきたいと考えている。